

文化財庭園保存技術者協議会 会報

2015.11 第26号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：徳村盛市）
〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPOみどりのまちづくり研究所内
TEL：075-341-2600 FAX：075-361-0961
評議会連絡所：〒602-8261 京都市上京区多門町440-6 株式会社環境事業計画研究所内
TEL：075-431-0055 FAX：075-431-0006
東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F 文化財庭園保存技術研究センター
TEL：03-3202-5233 FAX：03-3202-5394

平成26年度実地技能研修会の報告

2015年2月15日（日）京都府内において実地技能研修を開催いたしました。その概要をご報告いたします。今回の研修は、京都市内の名勝智積院庭園、木津川市の特別名勝及び史跡浄瑠璃寺庭園、京田辺市の名勝酬恩庵庭園を会場に実施し、智積院庭園ならびに浄瑠璃寺庭園では、現在行われている保存整備について解説を交えながら見学しました。今回、たくさんの方にお申込みいただき、90名近い方が参加してくださいました。そのため、集合場所である京都駅から各会場までは、大型バス2台で移動しました。

まず、最初の研修会場である智積院では、智積院総務本庁にて総務部の平野哲央総務第二課長、文化庁の青木達司文化財調査官にご挨拶いただき研修が開会されました。その後、名勝智積院庭園ならびに建造物、特別公開中であつた辰殿や国宝の障壁画がある収蔵庫を見学しました。修復整備中の庭園については、修理委員会の委員長である尼崎博正評議員より、書院から植栽の修復剪定を中心にご説明いただき、さらに設計監理を行っている環境事業計画研究所の吉村龍二所長、施工を担当されている植彌加藤造園の田尻喜之準会員に、護岸の修復状況等の説明を行っていただきました。



青木達司文化財調査官より開会のご挨拶

智積院で昼食をとった後は、再びバスにて移動し、次の研修会場である木津川市の特別名勝及び史跡浄瑠璃寺庭園にまいりました。

浄瑠璃寺では、まず阿弥陀堂にてご住職に歴史や沿革等をお話いただき、その後、庭園を見学しました。保存修理検討委員会の委員長である中村一評議員、元委員で文化庁の青木文化財調査官、設計監理を行っている都市景観設計（賛助会員）の中野浩幸氏、施工を担当されている樋口造園の齋藤貴吉研修会員に、州浜護岸の修理計画や施工方法についてご

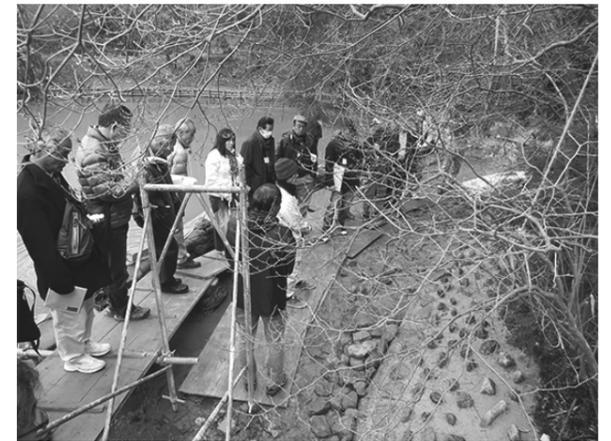


智積院庭園 見学の様子

説明いただきました。さらに木津川市教育委員会の芝野康之氏には、発掘調査やこれまでの事業についてご説明いただきました。

その後、最後の研修会場である京田辺市の酬恩庵一休寺に移動しました。方丈では、ご住職より沿革等をお話いただき、名勝酬恩庵庭園や重要文化財等、さらに特別公開の虎丘庭園を見学しました。

今回は、修復整備中の庭園において、実際に事業関係者の方から解説していただきながら作業を見学することができ、参加された皆さまは、熱心に見学し積極的な質問もあり、有意義な研修となりました。



浄瑠璃寺庭園 見学の様子

平成27年度新進芸術家育成事業ならびに第12回文化財庭園フォーラムが宮城県気仙沼市にて開催されました

2015年6月文化庁の「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の受託により、文化財庭園保存管理技術全般の長期研修を実施いたしました。

5年目となる今年度は、宮城県気仙沼市にある市指定名勝の煙雲館庭園において、8日間にわたり行われました。また、研修の締めくくりには、文化財庭園保存管理技術ならびに研修成果を見ていただくための技術見学会や、第12回文化財庭園フォーラムを開催し、煙雲館庭園の価値や今後の保存継承のための課題について共有する機会を設けました。

煙雲館は、仙台藩御一家の筆頭である鮎貝氏の旧居館であり、近代短歌の先駆者である落合直文の生家としても知られています。また、気仙沼湾を眺望することのできる、海岸沿いの丘陵地に位置しており、庭園はその立地を生かした地形造成がなされています。

平成23年3月に発生した東日本大震災により、気仙沼市は甚大な被害に見舞われました。煙雲館においては、石燈籠の転落や護岸石の傷み等の被害はありましたが、高台であつたために津波の被害からは逃れました。しかしながら、周辺地域においては壊滅的な被害を受けてい



実技研修の様子（中島の植栽剪定）

ます。この研修は、東日本大震災の復興支援の一環であるため、被災の状況を理解したうえで研修にあたることを目的に、震災の記録展示を行っているリアスアーク美術館を訪れました。さらに、庭園近くの景勝地である三陸復興国立公園の岩井崎を見学しました。

6月20日の研修初日には、煙雲館庭園にて開会式が行われ、文化庁の平澤毅文化財調査官、煙雲館の鮎貝文子館主、気仙沼市教育委員会の白幡勝美教育長

にご挨拶をいただきました。開会式後は、評議会員とともに園内を周り、修理内容の方針等を検討しました。

翌日の 21 日より本格的な作業に入り、地割管理技術、石組管理技術、水処理管理技術、植栽管理技術、庭園構造物・石造物管理技術の研修を実施しました。また、飛石や護岸石の据え直し等、掘削をとまなう修理工事に着手する前には確認調査を行い、傷みの有無と要因を検証したうえで修理方針を検討しました。主屋周りの平場においては、

飛石の不陸要因や地盤の造成過程について調査を行いました。その結果、飛石の不陸は確認されませんでした。平場は経年による土の堆積や砂利の補充等により、地盤面が上がり排水不良の要因ともなっていたことが確認できたため、排水経路の確保と砂利の敷き直しを行いました。また、護岸石組についても傾倒及び転落といった傷みが認められたため、据え直しを行いました。護岸石の据え直しには三又を用い、古写真や確認調査成果に基づき据え直しを行いました。池内に転落していた護岸石については、時間を巻き戻したように逆回転させ、当初の位置を推定して据え直しました。しかしながら、平場の飛石の不陸要因のように、確認調査においても明らかな根拠を得られなかったもの等、今回は修理を見送ったものもありました。現在園池への給水管として設けられている塩ビ管の付近に、流れ石組とみられる石組が検出され、当初の給水口と考えられましたが、後世の改変により、根拠となるものが認められなかったため、今回は現状を踏襲した修理を行いました。このように、確認調査を行い、着手するもの

と今後の課題として現状維持するものとの判断しながら研修を行いました。

植栽管理技術の研修については、成長して繁茂した低木の切り戻し、遠景となっている高木の剪定や枝おろし等を実施しました。中でも、庭園景觀に大きく変化を与える作業となったのは、中島をはじめ随所に植栽されているドウダンツツジの伐採でした。大きく成長したドウダンツツジは、庭園の特徴である地形を隠してしまっている状態であったため、評議会員及び正会員と館主の鮎貝



実技研修の様子（確認調査結果の説明）



実技研修の様子（護岸石組の据え直し）



実技研修の様子（給水口の修理）



実技研修の様子（石燈籠の据え直し）

氏で検討し、思い切った伐採を行うこととしました。ただし、伐採作業は急激には行わず、庭園景觀にあまり影響のないものから着手しました。伐採し地形が現れることで、庭園本来の魅力が発揮されることを確認し、共有しながら段階を踏んで作業を進めました。初めは大きく変わった庭園を見て驚かれていた鮎貝館主でしたが、隠れていた地形や景石が現れ、新しい庭園の魅力にも驚かれていました。

庭園石造物管理技術の研修では、東日本大震災により転落した石燈籠の据え直しを行いました。石燈籠は、池内に火袋と笠が転落した状態となっていました。古写真により滝石組みの中腹に据えてあったことが確認できたため、二又を設置し背後の樹木にワイヤーを張り、チルホールを用いて池内から笠を持ち上げて据え直しました。8 日間にわたる研修では、上記以外にも様々な保存管理技術の研修を行いました。その成果として、27 日は実際に研修を行う様子を見ていただく技術見学会を開催しました。天候に恵まれていた研修中でしたが、見学会当日は雨天となったため室内での開催となりました。しかし、悪天候にも関わらず会場となった広間には、たくさんの方に集まっていただきました。水本代表、文化庁の青木達司文化財調査官、白幡教育長、煙雲館庭園文化保存会の菅原雅会長よりご挨拶をいただき、鮎貝館主、気仙沼市教育委員会の幡野寛治主幹兼文化振興係長に庭園説明をしていただきました。実際に作業を見ていただくことはできませんでしたが、広間より庭園を眺めながら、正会員よりそれぞれの担当箇所の研修内容についてご解説いただきました。28 日は、気仙沼中央公民館にて第 12 回文化財庭園フォーラムを開催し、青木文化財調査官と宮城県多賀城跡研究所の白崎恵介主任研究員にご講演いただき、本協議会からは研修内容を報告しました。その後、鮎貝館主と幡野氏にご参加いただき、パネルディスカッションを行い、最後にコーディネーターである文化庁世界文化遺産アドバイザーの本中眞氏に内容をまとめていただきました。



技術見学会の様子

今回の研修では、庭園の所有者である鮎貝文子館主をはじめ、宮城県教育委員会、気仙沼市教育委員会、南部庭園の菅原喜代治代表、また煙雲館関係者のたくさんの方にお世話になり、無事に全日程を終えることができました。この場をお借りし厚くお礼を申し上げます。

平成 27 年度総会ならびに研修会の報告

2015 年 7 月 24 日（金）京都市内の仁和寺において平成 27 年度総会ならびに研修会を開催しました。その概要を報告いたします。

今年度の総会は、仁和寺の御室会館で開催され、水本隆信代表の挨拶からはじまりました。続いて、仁和寺の大石隆淳財務部長、文化庁の平澤毅文化財調査官にご挨拶をいただきました。

総会は、資料に基づき議事が進められ、平成 26 年度の事業報告・決算報告・監査報告が行われ、続いて平成 27 年度の事業計画ならびに予算が報告されました。また、2 年の任期を終えられた水本隆信正会員に代わり、徳村盛市正会員が会員の賛成を以て新代表となりました。副代表は、加藤末男正会員と山中功正会員に決定し、役員が新体制となりました。

総会に続いて教養研修が行われ、基調講演として文化庁の平澤毅文化財調査官に「名勝地としての庭園の保護」と題してご講演いただきました。その後、国宝・重要文化財（建造物）仁和寺金堂でお話を伺った後、3班にわかれて見学を実施しました。国宝・重要文化財（建造物）仁和寺/観音堂・遼廓亭・飛瀟亭等、京都市指定名勝仁和寺庭園を見学し、庭園については尼崎博正評議員、修復作業中の観音堂については京都府文化財保護課の吉田理氏、遼廓亭・飛瀟亭については仁和寺の担当者の方ならびに樋口造園の吉野裕仁準会員よりご解説いただきました。



仁和寺庭園 見学の様子

夜は御室会館にて情報交換会が開催されました。今年度は、2年毎に行われる会員資格更新の年であり、総会前に開催された評議会により多くの会員が昇格されました。会の中盤には昇格者の発表があり、昇格者代表として準会員補から準会員に昇格した松中徹氏に今後の意気込みをスピーチしていただきました。

翌日の7月25日（土）26日（日）の2日間は、旧三井家下鴨別邸庭園を会場に、実技技能研修を実施しました。旧三井家下鴨別邸は、下鴨神社の糺の森の南端、高野川と鴨川の合流



旧三井家下鴨別邸 実技研修の様子

地点の北岸に位置しており、建造物は重要文化財に指定されています。研修初日には、京都市文化市民局の長谷川行孝係長より、古写真を交えて沿革等をご説明いただきました。研修は植栽管理技術の研修を中心とし、成長して繁茂した高木の枝おろしや、実生の常緑樹の伐採、園池護岸際の低木類の剪定等を行いました。その結果、樹木が密生し地割が不明瞭となっていた空間に広がりを取り戻しました。また、2日目の最後には、各エリアを担当した技術会員より作業内容や方針等の発表が行われ、評議員の指導のもと研修内容を検証しました。

庭園学講座 22 開催される

京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターが主催する庭園学講座 22「古都の風景と庭園」が、2015年8月28日（金）から8月30日（日）の3日間で開催されました。本協議会では、これを特別教養研修と位置付け会員に開講のご案内をいたしましたところ、今回も多くの方がご参加いただきました。

初日の8月28日（金）は、京都造形芸術大学にて座学より始まりました。開講にあたり、本協議会評議員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの尼崎博正所長よりご挨拶があり、続いて講座のテーマである「古都の風景と庭園」について、京都と奈良における庭園の立地環境と水との関係等について講義が行われました。次に、京都工芸繊維大学准教授の矢ヶ崎善太郎氏から「数寄者の役割 文化の継承として」と題して、近代における数寄者の活動やその意義についてのご講義がありました。座学の締めくくりとして、同センター

の仲隆裕副所長から「名勝奈良公園高畑裁判所跡地の庭園遺構」と題して、2日目の見学地でもある高畑裁判所跡地の庭園遺構について、概要と庭園調査状況の説明がありました。午後からは、下鴨神社で現地研修が行われ、仲副所長の解説のもと、史跡糺の森や瀬見の小川等を見学した後、本殿や大炊殿を見学しました。境内では、同センター研究員の町田香氏から、下鴨神社の神域と空間利用についての説明がありました。その後、下鴨神社東側に位置する石村亭に移動し、現在の所有者である日新電機株式会社の方に沿革や歴史について、建築については矢ヶ崎氏、庭園については尼崎所長によるご解説のもと見学を行いました。



下鴨神社糺の森 見学の様子

2日目の29日（土）は奈良に会場を移し、奈良県文化会館での座学から始まりました。はじめに、奈良県立大学の井原緑氏より「奈良の近代と公園-公園を考える-」と題して、公園制度の成り立ちや奈良公園の成立についてご講義があり、続いて、天理大学講師の黒岩康博氏より「奈良万葉植物園の創設過程」と題して万葉植物園の創設過程や園内の構成についてのご講義がありました。次に、午前最後の講義として、奈良公園知事公室審議官の中西康博氏より「奈良公園物語」と題して、奈良公園の変遷と市民との関係性等についての講義が行われました。午後は、春日大社へ移動し、境内及び貴賓館にある重森三玲作庭の三方正面七五三磐境の庭・稲妻形遣水の庭を見学した後、志賀直哉旧宅、高畑裁判跡地の庭園遺構を見学しました。

3日目の30日（日）は奈良県庁屋上に集合し、生駒山や若草山、奈良市内を望みつつ始まりました。次に、名勝依水園へ移動し、寧楽美術館と合わせて見学しました。なお、建造物については寧楽美術館の田代佳子副館長、庭園については尼崎所長、保存修理による修復剪定については京都造形芸術大学非常勤講師の吉村龍二氏による説明がありました。午後からは、奈良県文化会館にてシンポジウムが開催され、仲副所長の司会により、講義ならびにディスカッションが行われました。



依水園 見学の様子

講義は、同センター主任研究員のウィーベ・カウテルト氏による「古都の風景と桜」と題した古都に植生する桜についてのお話からはじまり、吉村氏より「名勝依水園における風致景観・外部環境を守る」と題して、依水園の保存修理計画の内容や課題についての説明がありました。その後、仲副所長より「古都にみる風景のしかけ」と題して、庭園の空間構成と周辺地域との関係性についてご講義があり、続いて井原氏より「庭園から公園へ」と題して庭園と公園の違いについて、中西氏より奈良公園の景観を守るための植栽計画についての講義が行われました。その後、パネラーの方々が参加され、ディスカッションが行われました。

全ての日程を終えた後、最後に尼崎博正所長より修了証書の授与と閉講のご挨拶があり、3日間の講座が終了しました。

文化庁主催シンポジウム『選定保存技術公開事業 文化庁日本の技体験フェア 2015

～ふれてみよう！文化財を守り続けてきた匠の技～』開催される

2015年9月12日(土)13日(日)、島根県出雲市の大社文化プレイスうらら館において、文化庁主催シンポジウム『選定保存技術公開事業 文化庁日本の技体験フェア 2015～ふれてみよう！文化財を守り続けてきた匠の技～』が開催されました。当日は選定保存技術保存団体が一同に会し、各団体の後継者育成の取り組みや、保存伝承活動についての報告がありました。本協議会も設立趣旨や研修の様子等を紹介したパネル展示、醍醐寺三宝院庭園の保存修理の様子をビデオで放映しました。



手箒づくり体験の様子

体験フェアでは、一昨年の会津若松市・昨年の盛岡市に引き続き、手箒の手づくり体験を行いました。体験者には、徳村盛市代表・山中功副代表・水本隆信前代表・安達誠準会員補・渡部興一研修会員・(有)植富の職人の方にそれぞれ弟子入りし、手箒を作っていただきました。



手箒づくり体験の様子

今年度は昨年度とは異なる種類の竹も使用し、その違い等について体験者の方々に説明をしながら作業を行いました。弟子入りした皆様は、たいへん熱心で、立派な手箒が出来上がると嬉しそうに持って帰られていました。本協議会のブースは大盛況で、体験を希望される参加者が列になって順番を待ってくださり、小さい子供から年配の方まで、たくさんの方に体験していただきました。

2016年実技技能研修の開催について

来年2016年2月愛媛県新居浜市において、3日間の実技技能研修を開催いたします。詳細が決まり次第、ご連絡を差し上げます。ご多忙中とは存じますが是非ご参加ください。

- **場所：**
広瀬歴史記念館 旧広瀬邸庭園
(新居浜市上原2丁目10番24号)
- **日程：**
平成28年2月26日(金)
～2月28日(日)
- **アクセス：**
JR新居浜駅より車で15分
- **内容：**
植栽管理技術の研修



平成27年度新進芸術家育成事業の研修報告書が刊行しました

2015年6月、文化庁の「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の受託により宮城県気仙沼市での長期研修を実施いたしました。その報告書を刊行いたしましたので、ここに報告させていただきます。研修では、様々な文化財庭園保存管理技術の研修を行いました。その成果となりますので、是非ご一読いただきたいと思います。

資格昇格会員と新規加入会員の紹介

今年度は、会員資格更新の年度であり、会員資格が昇格された方がいらっしゃいます。ここに報告させていただきます。

前回資格	更新資格	氏名	所属
準会員補	準会員	山田拓広	花豊造園(株)
		加藤友規	植彌加藤造園(株)
		今井直久	(株)植藤造園
		西原厚博	(株)庭園センター
研修会員	準会員補	松中徹	松中造園
		徳村高秀	庭匠植清
		加藤淳子	植丈加藤造園
		小林賢	(財)会津若松市観光公社
		山田耕三	花豊造園(株)
		新藤志延	新藤造園総業
		山口満	植彌加藤造園(株)
		高橋正博	高橋造園
		大西浩充	大西造園

2015年11月末日で技能会員は177名、支援会員・賛助会員は19団体、4名となりました。ここに新規に入会された方をご紹介します。

〔7月入会者〕

会員区分	氏名	所属
準会員補	加藤武史	植彌加藤造園(株)
	羽嶋秀一	(株)羽嶋松翠園
	亀井保孝	有限会社亀井造園
	三輪純一	(株)高石造園土木
研修会員	井上靖智	植彌加藤造園(株)
	泉田幸仁	むつみ造園土木(株)
	船木誠一郎	むつみ造園土木(株)
	佐藤 亨	(株)佐藤農園
	大垣純子	真澄寺別院 流響院
賛助会員	村木隆彦	(有)江洲造園
賛助会員	(株)岐阜造園	(株)高石造園土木

〔11月入会者〕

会員区分	氏名	所属
準会員補	高木淳一	(株)高木造園
	堀正巳	諸戸緑化産業(株)
	渥美守弘	(有)渥美園
研修会員	菅原政勝	菅原造園
	渡部興一	植吉
	大釜慎史	緑 植木
賛助会員	古田収	(有)保然
	伊關靖幸	(株)高木造園
賛助会員	井上雅裕	京都市伏見区役所

(編) 今年も残すところ1カ月となりました。皆さま年末にむけてお忙しくされていることとお察しします。そんな中ではございますが、来年の研修のご案内をさせていただいております。愛媛県では初めての实技研修となりますので、是非ご参加ください。これから本格的に寒さの厳しい季節となります。皆さまどうぞご自愛くださいませ。(Y.Y)